

2020年6月8日

科目名	中央大学論文演習①	必修・選択	必須 / 遠隔授業(ライブ配信)
対象クラス	法学部併修学科1年	開講時期	通年
教員名	小林 貴子	実務授業の有無	無

## 1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

本科目はライブ配信による遠隔授業形式にて実施する。公務員採用試験、法科大学院入学試験等の各種試験に必要な最低限の知識、企業における法務セクション等で要求される法律の諸知識を獲得すること、また社会人として今後遭遇するであろう民法の法律問題につき相当な知識を身につけることが到達目標である。  
民法総則1条～174条と、成年後見法、消費者契約法や一般法人法など関連する特別法の解釈論等についても学ぶ。  
上記目標に沿って、憲法・民法総則・刑法総論のレポートの作成方法を学び実際に法律論文等に対応できるように演習を通じて表現する。出欠確認/課題配布&提出/質問受付等は全て授業管理システム(MS Teams)を通じて行うものとする。

## 2. 授業計画

(1時限

45分

×

33回

=

1485分

2単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	憲法(1)	41	
2	民法1(民法総則)(2)	42	
3	刑法総論(3)	43	
4	法学入門(4)	44	
5	憲法(1)	45	
6	民法1(民法総則)(2)	46	
7	刑法総論(3)	47	
8	法学入門(4)	48	
9	憲法(1)	49	
10	民法1(民法総則)(2)	50	
11	刑法総論(3)	51	
12	法学入門(4)	52	
13	憲法(1)	53	
14	民法1(民法総則)(2)	54	
15	刑法総論(3)	55	
16	法学入門(4)	56	
17	憲法(1)	57	
18	民法1(民法総則)(2)	58	
19	刑法総論(3)	59	
20	法学入門(4)	60	
21	憲法(1)	61	
22	民法1(民法総則)(2)	62	
23	刑法総論(3)	63	
24	法学入門(4)	64	
25	憲法(1)	65	
26	民法1(民法総則)(2)	66	
27	刑法総論(3)	67	
28	法学入門(4)	68	
29	憲法(1)	69	
30	民法1(民法総則)(2)	70	
31	刑法総論(3)	71	
32	法学入門(4)	72	
33		73	
34		74	
35		75	
36		76	
37		77	
38		78	
39		79	
40		80	

## 3. 評価方法

出席	80%	} 100%	備考欄 ・ 毎時出される課題の提出により動画視聴を確認し、これをもって出欠管理とする。この課題の成績は最終評価の50%を占めるものであり、真剣に取り組むことが強く推奨される。 ・ 諸連絡は各担任よりTeams若しくはクラスLINEによりなされる
授業貢献度			
授業内のレポート・課題等	20%		
中間試験			
期末試験			

## 4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	中央大学オンライン授業レジュメ	出版社	
著者名			

## 5. 実務教員の経歴

無
---

2020年6月8日

科目名	歴史(西洋史) I	必修・選択	必須 / 遠隔授業(ライブ配信)
対象クラス	法学部併修学科・法律公務員学科	開講時期	前期
教員名	夏野 龍	実務授業の有無	無

## 1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

本科目はライブ配信による遠隔授業形式にて実施する。  
 基礎事項の確認を通し世界史の流れを大まかに掴み、現在の西欧世界に対する理解を深めることを目的とする。  
 人物に関するエピソードや雑学をふんだんに盛り込んだ講義により歴史学に対する抵抗感を払拭し、国際社会の常識を身に付けることを促す。  
 講義はプリントを中心にした座学、歴史(西洋史)Ⅱでは演習を中心に行う。  
 出欠確認/課題配布&提出/質問受付等は全て授業管理システム(MS Teams)を通じて行うものとする。

## 2. 授業計画

(1時限

45分

×

30回

=

1350分

2単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	イントロダクション	41	
2	四大文明1	42	
3	四大文明2	43	
4	四大文明3	44	
5	四大文明4	45	
6	ギリシャ世界1	46	
7	ギリシャ世界2	47	
8	ギリシャ世界3	48	
9	ローマ帝国1	49	
10	ローマ帝国2	50	
11	ローマ帝国3	51	
12	西ヨーロッパ・キリスト教の発展1	52	
13	西ヨーロッパ・キリスト教の発展2	53	
14	西ヨーロッパ・キリスト教の発展3	54	
15	東ヨーロッパ・封建社会の変化1	55	
16	東ヨーロッパ・封建社会の変化2	56	
17	東ヨーロッパ・封建社会の変化3	57	
18	ルネサンス・宗教改革1	58	
19	ルネサンス・宗教改革2	59	
20	ルネサンス・宗教改革3	60	
21	ルネサンス・宗教改革4	61	
22	新大陸発見～絶対主義1	62	
23	新大陸発見～絶対主義2	63	
24	市民革命1	64	
25	市民革命2	65	
26	ヨーロッパ諸国の東進1	66	
27	ヨーロッパ諸国の東進2	67	
28	現代社会1	68	
29	現代社会2	69	
30	問題演習	70	
31		71	
32		72	
33		73	
34		74	
35		75	
36		76	
37		77	
38		78	
39		79	
40		80	

## 3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄 <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時出される課題の提出により動画視聴を確認し、これをもって出欠管理とする。この課題の成績は最終評価の50%を占めるものであり、真剣に取り組むことが強く推奨される。</li> <li>諸連絡は各担任よりTeams若しくはクラスLINEによりなされる</li> </ul>
授業貢献度			
授業内のレポート・課題等	20%		
中間試験			
期末試験	70%		

## 4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	公務員Vテキスト人文科学 オリジナルプリント、図解世界史		
著者名		出版社	TAC

## 5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	地理学	必修・選択	必須 / 遠隔授業(ライブ配信)
対象クラス	法学部併修学科・法律公務員学科	開講時期	前期
教員名	後藤 博之	実務授業の有無	無

## 1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

本科目はライブ配信による遠隔授業形式にて実施する。  
 基礎事項の確認を通し世界史の流れを大まかに掴み、現在の西欧世界に対する理解を深めることを目的とする。  
 人物に関するエピソードや雑学をふんだんに盛り込んだ講義により歴史学に対する抵抗感を払拭し、国際社会の常識を身に付けることを促す。  
 講義はプリントを中心にした座学、歴史(西洋史)Ⅱでは演習を中心に行う。  
 出欠確認/課題配布&提出/質問受付等は全て授業管理システム(MS Teams)を通じて行うものとする。

## 2. 授業計画

(1時限

45分

×

60回

=

2700分

4単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	自然環境①	41	南北アメリカ・オセアニア④
2	自然環境②	42	南北アメリカ・オセアニア⑤
3	自然環境③	43	南北アメリカ・オセアニア⑥
4	自然環境④	44	日本の自然・貿易①
5	自然環境⑤	45	日本の自然・貿易②
6	気候・土壌①	46	日本の自然・貿易③
7	気候・土壌②	47	日本の自然・貿易④
8	気候・土壌③	48	日本の自然・貿易⑤
9	気候・土壌④	49	日本の産業①
10	気候・土壌⑤	50	日本の産業②
11	民族・人口・交通・地図①	51	日本の産業③
12	民族・人口・交通・地図②	52	世界の都市・公害・環境問題①
13	民族・人口・交通・地図③	53	世界の都市・公害・環境問題②
14	民族・人口・交通・地図④	54	世界の都市・公害・環境問題②
15	民族・人口・交通・地図⑤	55	期末確認テスト
16	世界の農林水産業①	56	過去問対策・解説
17	世界の農林水産業②	57	過去問対策・解説
18	世界の農林水産業③	58	過去問対策・解説
19	世界の農林水産業④	59	過去問対策・解説
20	世界の農林水産業⑤	60	過去問対策・解説
21	世界の鉱工業①	61	
22	世界の鉱工業②	62	
23	世界の鉱工業③	63	
24	世界の鉱工業④	64	
25	世界の鉱工業⑤	65	
26	アジア・アフリカ①	66	
27	アジア・アフリカ②	67	
28	アジア・アフリカ③	68	
29	アジア・アフリカ④	69	
30	アジア・アフリカ⑤	70	
31	アジア・アフリカ⑥	71	
32	ヨーロッパ①	72	
33	ヨーロッパ②	73	
34	ヨーロッパ③	74	
35	ヨーロッパ④	75	
36	ヨーロッパ⑤	76	
37	ヨーロッパ⑥	77	
38	南北アメリカ・オセアニア①	78	
39	南北アメリカ・オセアニア②	79	
40	南北アメリカ・オセアニア③	80	

## 3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄 <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時出される課題の提出により動画視聴を確認し、これをもって出欠管理とする。この課題の成績は最終評価の50%を占めるものであり、真剣に取り組むことが強く推奨される。</li> <li>諸連絡は各担任よりTeams若しくはクラスLINEによりなされる</li> </ul>
授業貢献度			
授業内のレポート・課題等	70%		
中間試験			
期末試験	20%		

## 4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	公務員Vテキスト人文科学(下)・詳解現代地図	出版社	TAC株式会社出版事業部・二宮書店
著者名	TAC株式会社・二宮書店編集部		

## 5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	英語A	必修・選択	必須 / 遠隔授業(ライブ配信)
対象クラス	法学部併修学科	開講時期	前期
教員名	スティーブソン・アロン	実務授業の有無	無

## 1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

<p>本科目はライブ配信による遠隔授業形式にて実施する。  基礎事項の確認を通し世界史の流れを大まかに掴み、現在の西欧世界に対する理解を深めることを目的とする。人物に関するエピソードや雑学をふんだんに盛り込んだ講義により歴史学に対する抵抗感を払拭し、国際社会の常識を身に付けることを促す。講義はプリントを中心とした座学、歴史(西洋史)Ⅱでは演習を中心に行う。  事前学習－授業時間同様の時間を使い、学習ユニットの表現、語句について下調べをすること。  事後学習－授業時間同様の時間を使い、学習ユニットの音読練習、ほぼ毎回行う小テストを含め次回への課題に向け取り組むこと。  出席する上での注意点－積極的に発言、参加すること。辞書必携。  出欠確認/課題配布&amp;提出/質問受付等は全て授業管理システム(MS Teams)を通じて行うものとする。</p>
--

## 2. 授業計画 (1時限 45分 × 30回 = 1350分 2単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	オリエンテーション	41	
2	Where is PC room? (Vocabulary, Listening)	42	
3	Where is PC room? (Vocabulary)	43	
4	Where is PC room? (Writing)	44	
5	Where is PC room? (Activity)	45	
6	When does Golden Week start? (Vocabulary)	46	
7	When does Golden Week start? (Listening)	47	
8	When does Golden Week start? (Writing)	48	
9	When does Golden Week start? (Activity)	49	
10	What does "term" mean? (Vocabulary)	50	
11	What does "term" mean? (Listening)	51	
12	What does "term" mean? (Writing)	52	
13	What does "term" mean? (Activity)	53	
14	I'm a member of the International Exchange Club (Vocabulary)	54	
15	I'm a member of the International Exchange Club (Listening)	55	
16	I'm a member of the International Exchange Club (Writing)	56	
17	I'm a member of the International Exchange Club (Activity)	57	
18	I got a part-time job at the International Foods Market (Vocabulary)	58	
19	I got a part-time job at the International Foods Market (Listening)	59	
20	I got a part-time job at the International Foods Market (Writing)	60	
21	I got a part-time job at the International Foods Market (Activity)	61	
22	What do you think about this program? (Vocabulary)	62	
23	What do you think about this program? (Listening)	63	
24	What do you think about this program? (Writing)	64	
25	What do you think about this program? (Activity)	65	
26	How do you spend your vacation? (Vocabulary)	66	
27	How do you spend your vacation? (Listening)	67	
28	How do you spend your vacation? (Writing)	68	
29	How do you spend your vacation? (Activity)	69	
30	When is the due date? (Vocabulary, Listening)	70	
31		71	
32		72	
33		73	
34		74	
35		75	
36		76	
37		77	
38		78	
39		79	
40		80	

## 3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄 <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時出される課題の提出により動画視聴を確認し、これをもって出欠管理とする。この課題の成績は最終評価の50%を占めるものであり、真剣に取り組むことが強く推奨される。</li> <li>諸連絡は各担任よりTeams若しくはクラスLINEによりなされる</li> </ul>
授業貢献度	20%		
授業内のレポート・課題等	50%		
中間試験			
期末試験	20%		

## 4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	Campus English		
著者名	Hiroko Nishikage / Masaaki Tamura / Levi Hanson	出版社	CENGAGE Learning

## 5. 実務教員の経歴

無
---

2020年6月8日

科目名	社会科学	必修・選択	必須 / 遠隔授業(ライブ配信)
対象クラス	法律公務員学科、法学部併修学科	開講時期	前期
教員名	相田 裕亮	実務授業の有無	無

## 1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

<p>本科目はライブ配信による遠隔授業形式にて実施する。          頻出ポイントに絞りテキストの確認・補足→演習問題で覚えていない個所を絞り出し、知識の穴を埋めていく。          基礎知識を生かし、使用テキスト以外の問題にも挑戦し得点できる力を養う。          最終的に、各評価試験で7割の得点を目標とする。          出欠確認/課題配布&amp;提出/質問受付等は全て授業管理システム(MS Teams)を通じて行うものとする。</p>
---

## 2. 授業計画

(1時限

45分

×

62回

=

2790分

4単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	政治 テーマ1 法学一般	41	経済 テーマ10 経済事情 経済史
2	政治 テーマ1 法の基礎理論	42	経済 テーマ11 経済事情 世界の通貨・貿易体制
3	政治 テーマ3 憲法	43	経済 テーマ12 経済事情 日本・世界経済事情
4	政治 テーマ4 基本的人権(総論)	44	経済 テーマ13 経済事情 日本・世界経済事情
5	政治 テーマ4 基本的人権(総論)	45	経済 テーマ14 経済事情 経済・経営用語
6	政治 テーマ5 基本的人権(各論)	46	社会テーマ1 社会学・心理学の基礎
7	政治 テーマ5 基本的人権(各論)	47	社会テーマ2 労働事情
8	政治 テーマ6~8 国会・内閣・裁判所	48	社会テーマ2 労働事情
9	政治 テーマ6~8 国会・内閣・裁判所	49	社会テーマ3 少子高齢化・社会保障
10	政治 テーマ9 地方自治	50	社会テーマ3 少子高齢化・社会保障
11	政治 テーマ9 地方自治	51	社会テーマ4 政治・経済・国際事情
12	政治 テーマ10 選挙	52	社会テーマ4 政治・経済・国際事情
13	政治 テーマ10 選挙	53	社会テーマ5 消費者問題・食料事情
14	政治 テーマ11 行政に関する諸問題	54	社会テーマ5 消費者問題・食料事情
15	政治 テーマ11 行政に関する諸問題	55	社会テーマ6 環境・資源環境
16	政治 テーマ12 各国の政治制度	56	社会テーマ6 環境・資源環境
17	政治 テーマ12 各国の政治制度	57	社会テーマ7 科学技術・医療
18	政治 テーマ13 国際政治	58	社会テーマ7 科学技術・医療
19	政治 テーマ13 国際政治	59	社会テーマ8 その他の社会問題
20	政治 テーマ14 国際連合	60	過去問演習
21	政治 テーマ14 国際連合	61	過去問演習
22	経済 テーマ1 ミクロ経済学 需要曲線と供給曲線	62	過去問演習
23	経済 テーマ1 ミクロ経済学 需要曲線と供給曲線		
24	経済 テーマ2 ミクロ経済学 消費者と生産者の行動		
25	経済 テーマ2 ミクロ経済学 消費者と生産者の行動		
26	経済 テーマ3 ミクロ経済学 市場と経済厚生		
27	経済 テーマ3 ミクロ経済学 市場と経済厚生		
28	経済 テーマ4 マクロ経済学 国民所得の概念とその決定		
29	経済 テーマ4 マクロ経済学 国民所得の概念とその決定		
30	経済 テーマ5 マクロ経済学 経済政策論		
31	経済 テーマ5 マクロ経済学 経済政策論		
32	経済 テーマ6 マクロ経済学 金融政策と制度・事情		
33	経済 テーマ6 マクロ経済学 金融政策と制度・事情		
34	経済 テーマ7 マクロ経済学 インフレーション		
35	経済 テーマ7 マクロ経済学 インフレーション		
36	経済 テーマ8 財政学 財政の機能と財政制度・事情		
37	経済 テーマ8 財政学 財政の機能と財政制度・事情		
38	経済 テーマ9 財政学 租税制度		
39	経済 テーマ9 財政学 租税制度		
40	経済 テーマ10 経済事情 経済史		

## 3. 評価方法

出席	20%	} 100%	備考欄 <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時出される課題の提出により動画視聴を確認し、これをもって出欠管理とする。この課題の成績は最終評価の50%を占めるものであり、真剣に取り組むことが強く推奨される。</li> <li>諸連絡は各担任よりTeams若しくはクラスLINEによりなされる</li> </ul>
授業貢献度	20%		
授業内のレポート・課題等			
中間試験	30%		
期末試験	30%		

## 4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	公務員Vテキスト社会科学	出版社	TAC株式会社出版事業部
著者名	TAC株式会社		

## 5. 実務教員の経歴

無
---

2020年6月8日

科目名	自然科学3(生物・地学)	必修・選択	必須 / 遠隔授業(ライブ配信)
対象クラス	法律公務員学科、法学部併修学科	開講時期	前期
教員名	夏野龍	実務授業の有無	無

## 1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

<p>本科目はライブ配信による遠隔授業形式にて実施する。          頻出ポイントに絞りテキストの確認・補足→演習問題で覚えていない個所を絞り出し、知識の穴を埋めていく。          基礎知識を生かし、使用テキスト以外の問題にも挑戦し得点できる力を養う。          最終的に、各評価試験で7割の得点を目標とする。          出欠確認/課題配布&amp;提出/質問受付等は全て授業管理システム(MS Teams)を通じて行うものとする。</p>
---

## 2. 授業計画

(1時限

45分

×

50回

=

2250分

3単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	生物Lesson1 細胞と組織	41	地学Lesson8 日本の天気
2	生物Lesson1 細胞と組織	42	生物Lesson9 生物の集団
3	地学Lesson1 地球の動き	43	生物Lesson9 生物の集団
4	地学Lesson1 地球の動き	44	生物Lesson9 生物の集団
5	地学Lesson2 太陽系	45	生物Lesson10 生物の分類・進化
6	地学Lesson2 太陽系	46	生物Lesson10 生物の分類・進化
7	地学Lesson3 恒星地学Lesson2 太陽系	47	生物Lesson10 生物の分類・進化
8	地学Lesson3 恒星地学Lesson2 太陽系	48	生物Lesson11 食物連鎖・物質の循環
9	生物Lesson2 光合成	49	生物Lesson11 食物連鎖・物質の循環
10	生物Lesson2 光合成	50	生物Lesson11 食物連鎖・物質の循環
11	生物Lesson3 酵素・呼吸	51	
12	生物Lesson3 酵素・呼吸	52	
13	生物Lesson3 酵素・呼吸	53	
14	地学Lesson4 地震	54	
15	地学Lesson4 地震	55	
16	生物Lesson4 刺激と反応	56	
17	生物Lesson4 刺激と反応	57	
18	地学Lesson5 岩石の分類	58	
19	地学Lesson5 岩石の分類	59	
20	地学Lesson6 地史	60	
21	地学Lesson6 地史	61	
22	生物Lesson5 ヒトの恒常性	62	
23	生物Lesson5 ヒトの恒常性		
24	地学Lesson7 大気と海洋		
25	地学Lesson7 大気と海洋		
26	地学Lesson7 大気と海洋		
27	生物Lesson6 植物の反応と調節		
28	生物Lesson6 植物の反応と調節		
29	生物Lesson6 植物の反応と調節		
30	生物Lesson7 生殖・性の決定		
31	生物Lesson7 生殖・性の決定		
32	生物Lesson7 生殖・性の決定		
33	生物Lesson7 生殖・性の決定		
34	生物Lesson8 遺伝		
35	生物Lesson8 遺伝		
36	生物Lesson8 遺伝		
37	生物Lesson8 遺伝		
38	生物Lesson8 遺伝		
39	地学Lesson8 日本の天気		
40	地学Lesson8 日本の天気		

## 3. 評価方法

出席	20%	} 100%	備考欄 <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時出される課題の提出により動画視聴を確認し、これをもって出欠管理とする。この課題の成績は最終評価の50%を占めるものであり、真剣に取り組むことが強く推奨される。</li> <li>諸連絡は各担任よりTeams若しくはクラスLINEによりなされる</li> </ul>
授業貢献度	20%		
授業内のレポート・課題等			
中間試験	30%		
期末試験	30%		

## 4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	公務員Vテキスト社会科学	出版社	TAC株式会社出版事業部
著者名	TAC株式会社		

## 5. 実務教員の経歴

無
---

2020年6月8日

科目名	憲法	必修・選択	必須 / 遠隔授業(動画配信)
対象クラス	法学部併修学科1年・法律公務員学科1年	開講時期	通年
教員名	吉井英二	実務授業の有無	無

## 1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

<p>本科目は動画配信による遠隔授業形式にて実施する。          憲法は、国の最高法規であり、あらゆる法規の基礎である。憲法というルールを定めることにより国家権力を制限し、それによって一人ひとりの自由や権利を保護する、いわゆる「近代立憲主義」の考え方を、具体的な事件や裁判例を通じ、「憲法的思考」を身につけ、憲法問題について自分なりに答えを出せるようにすることを到達目標とする。          出欠確認/課題配布&amp;提出/質問受付等は全て授業管理システム(MS Teams)を通じて行うものとする。</p>
--

## 2. 授業計画

(1時限

45分

×

60回

=

2700分

4単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	憲法の全体構造 憲法の全体構造、人権、統治	41	人権各論(23) 戦争の放棄
2	憲法総論(1) 憲法の意味、憲法の基本原理	42	統治(1) 権力分立、天皇制
3	憲法総論(2) 法の支配、憲法保障	43	統治(2) 代表民主制、選挙制度
4	憲法総論(3) 人権の権利性、平和主義	44	統治(3) 政党、議員定数不均衡
5	憲法総論(4) 人権享有主体性、外国人の人権、法人の人権	45	統治(4) 国会、唯一の立法機関、国会中心立法
6	憲法総論(5) 天皇の人権、公務員の人権、特別権力関係理論	46	統治(4) 国会、唯一の立法機関、国会中心立法
7	憲法総論(6) 在監者の人権、私人間効力	47	統治(5) 国会単独立法、国会の組織と活動
8	憲法総論(7) 公共の福祉論、パターンリズム、国民の義務	48	統治(5) 国会単独立法、国会の組織と活動
9	人権各論(1) 幸福追求権、新しい人権	49	統治(6) 国会議員、国会・議院の権能、議院の自律権
10	人権各論(1) 幸福追求権、新しい人権	50	統治(7) 内閣、議員内閣制、内閣総理大臣
11	人権各論(2) 法の下での平等、平等の具体的内容	51	統治(7) 内閣、議員内閣制、内閣総理大臣
12	人権各論(2) 法の下での平等、平等の具体的内容	52	統治(8) 財政、予算、公金支出の禁止
13	人権各論(3) 思想及び良心の自由、信教の自由	53	統治(9) 地方自治、地方公共団体、条例制定権
14	人権各論(3) 思想及び良心の自由、信教の自由	54	統治(10) 司法権の範囲と限界、部分社会の法理
15	人権各論(4) 政教分離原則	55	統治(11) 司法権の独立、裁判所の構成と権能、裁判の公開
16	人権各論(4) 政教分離原則	56	統治(11) 司法権の独立、裁判所の構成と権能、裁判の公開
17	人権各論(5) 学問の自由、大学の自治	57	統治(12) 違憲審査制、立法不作為
18	人権各論(5) 学問の自由、大学の自治	58	統治(13) 憲法訴訟、違憲審査の方法
19	人権各論(6) 表現の自由、報道の自由、メモの自由	59	統治(14) 憲法判断、合憲限定解釈、違憲判断の方法と効力
20	人権各論(6) 表現の自由、報道の自由、メモの自由	60	統治(14) 憲法判断、合憲限定解釈、違憲判断の方法と効力
21	人権各論(7) 取材の自由と国家機密、アクセス権	61	
22	人権各論(8) 選挙運動の自由、差別的表現の自由	62	
23	人権各論 営利広告の自由、性表現、名誉・プライバシー権、差し止め	63	
24	人権各論(10) 内容中立規制	64	
25	人権各論(11) 事前抑制禁止の理論、検閲の禁止、通信の秘密	65	
26	人権各論(11) 事前抑制禁止の理論、検閲の禁止、通信の秘密	66	
27	人権各論 集会・結社の自由、パブリック・フォーラム、敵意ある聴衆	67	
28	人権各論 集会・結社の自由、パブリック・フォーラム、敵意ある聴衆	68	
29	違憲審査基準 違憲審査基準の例、違憲判断の類型、三段階審査	69	
30	人権各論(13) 経済的自由権、営業の自由、規制目的二分論	70	
31	人権各論(14) 二分論の再検討、居住・移転の自由	71	
32	財産権の保障、財産権の違憲審査基準、条例と財産権	72	
33	人権各論(16) 損失補償、営業の自由と財産権の比較	73	
34	人権各論(17) 人身の自由、適正手続の保障、刑事手続上の権利	74	
35	人権各論(18) 請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権	75	
36	人権各論(19) 選挙権、被選挙権	76	
37	権各論(20) 社会権、生存権	77	
38	権各論(20) 社会権、生存権	78	
39	教育を受ける権利、教師側の教育の自由、義務教育	79	
40	人権各論(22) 労働基本権、統制権、争議権の限界	80	

## 3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄 <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時出される課題の提出により動画視聴を確認し、これをもって出欠管理とする。この課題の成績は最終評価の50%を占めるものであり、真剣に取り組むことが強く推奨される。</li> <li>諸連絡は各担任よりTeams若しくはクラスLINEによりなされる</li> </ul>
授業貢献度	10%		
授業内のレポート・課題等	30%		
中間試験			
期末試験	50%		

## 4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	試験対策講座5 憲法 第3版	出版社	弘文堂
著者名	伊藤真		

## 5. 実務教員の経歴

無
---

2020年6月8日

科目名	民法(物権)	必修・選択	必須 / 遠隔授業(動画配信)
対象クラス	法学部併修学科1年・法律公務員学科1年	開講時期	通年
教員名	吉井英二	実務授業の有無	無

## 1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

<p>本科目は動画配信による遠隔授業形式にて実施する。          公務員採用試験、法科大学院入学試験等の各種試験に必要な最低限の知識、企業における法務セクション等で要求される民法総則の諸知識を獲得すること、また社会人として今後遭遇するであろう民法の法律問題につき相当な知識を身につけることが到達目標である。          民法総則1条～174条と、成年後見法、消費者契約法や一般法人法など関連する特別法の解釈論等についても学ぶ。          出欠確認/課題配布&amp;提出/質問受付等は全て授業管理システム(MS Teams)を通じて行うものとする。</p>
---

## 2. 授業計画

(1時限

45分

×

58回

=

2610分

3単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	民法1 民法の全体構造、民法の指導原理	41	民法15 民法総則(13) 表見代理(109)、無権代理と表見代理
2	民法1 民法の全体構造、民法の指導原理	42	民法15 民法総則(13) 表見代理(109)、無権代理と表見代理
3	民法2 要件事実概論 要件事実の考え方、要件事実の例	43	民法15 民法総則(13) 表見代理(109)、無権代理と表見代理
4	民法2 要件事実概論 要件事実の考え方、要件事実の例	44	民法16 民法総則(14) 表見代理(110・112)
5	民法3 民法総則(1) 通則、自然人と能力	45	民法16 民法総則(14) 表見代理(110・112)
6	民法3 民法総則(1) 通則、自然人と能力	46	民法16 民法総則(14) 表見代理(110・112)
7	民法3 民法総則(1) 通則、自然人と能力	47	民法17 民法総則(15) 条件、期限、期間
8	民法4 民法総則(2) 住所・居所、失踪宣告	48	民法17 民法総則(15) 条件、期限、期間
9	民法4 民法総則(2) 住所・居所、失踪宣告	49	民法17 民法総則(15) 条件、期限、期間
10	民法4 民法総則(2) 住所・居所、失踪宣告	50	民法18 民法総則(16) 時効総論、時効の援用、時効の利益の放棄
11	民法5 民法総則(3) 法人制度、法人の機関、権利能力なき社団	51	民法18 民法総則(16) 時効総論、時効の援用、時効の利益の放棄
12	民法5 民法総則(3) 法人制度、法人の機関、権利能力なき社団	52	民法18 民法総則(16) 時効総論、時効の援用、時効の利益の放棄
13	民法5 民法総則(3) 法人制度、法人の機関、権利能力なき社団	53	民法19 民法総則(17) 時効の更新と完成猶予
14	民法6 民法総則(4) 物の概念、物権、主物と従物	54	民法19 民法総則(17) 時効の更新と完成猶予
15	民法6 民法総則(4) 物の概念、物権、主物と従物	55	民法19 民法総則(17) 時効の更新と完成猶予
16	民法6 民法総則(4) 物の概念、物権、主物と従物	56	民法20 民法総則(18) 取得時効、消滅時効
17	民法7 民法総則(5) 法律行為、意思表示	57	民法20 民法総則(18) 取得時効、消滅時効
18	民法7 民法総則(5) 法律行為、意思表示	58	民法20 民法総則(18) 取得時効、消滅時効
19	民法7 民法総則(5) 法律行為、意思表示	59	
20	民法8 民法総則(6) 意思表示理論、心裡留保、通謀虚偽表示	60	
21	民法8 民法総則(6) 意思表示理論、心裡留保、通謀虚偽表示	61	
22	民法8 民法総則(6) 意思表示理論、心裡留保、通謀虚偽表示	62	
23	民法9 民法総則(7) 錯誤	63	
24	民法9 民法総則(7) 錯誤	64	
25	民法9 民法総則(7) 錯誤	65	
26	民法10 民法総則(8) 詐欺、強迫	66	
27	民法10 民法総則(8) 詐欺、強迫	67	
28	民法10 民法総則(8) 詐欺、強迫	68	
29	民法11 民法総則(9) 無効、取消、追認	69	
30	民法11 民法総則(9) 無効、取消、追認	70	
31	民法11 民法総則(9) 無効、取消、追認	71	
32	民法12 民法総則(10) 代理総論、顕名、代理と詐欺	72	
33	民法12 民法総則(10) 代理総論、顕名、代理と詐欺	73	
34	民法12 民法総則(10) 代理総論、顕名、代理と詐欺	74	
35	民法13 民法総則(11) 代理権授与行為、双方代理、代理人の権限濫用	75	
36	民法13 民法総則(11) 代理権授与行為、双方代理、代理人の権限濫用	76	
37	民法13 民法総則(11) 代理権授与行為、双方代理、代理人の権限濫用	77	
38	民法14 民法総則(12) 代理権の消滅、無権代理	78	
39	民法14 民法総則(12) 代理権の消滅、無権代理	79	
40	民法14 民法総則(12) 代理権の消滅、無権代理	80	

## 3. 評価方法

出席	10%	100%	備考欄 <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時出される課題の提出により動画視聴を確認し、これをもって出欠管理とする。この課題の成績は最終評価の50%を占めるものであり、真剣に取り組むことが強く推奨される。</li> <li>諸連絡は各担任よりTeams若しくはクラスLINEによりなされる</li> </ul>
授業貢献度	10%		
授業内のレポート・課題等	30%		
中間試験			
期末試験	50%		

## 4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	民法講義録 改訂版 2019年	出版社	日本評論社
著者名	新井誠 岡伸浩		

## 5. 実務教員の経歴

無
---



2020年6月8日

科目名	刑法総論	必修・選択	必須 / 遠隔授業(動画配信)
対象クラス	法学部併修学科1年・法律公務員学科1年	開講時期	通年
教員名	相田 裕亮	実務授業の有無	無

## 1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

<p>本科目は動画配信による遠隔授業形式にて実施する。 この授業では、犯罪の基本的な成立要件を考える。刑法総則に規定される犯罪成立要件全体に共通する項目(構成要件該当性、違法性、有责性、未遂、共犯、罪数、刑罰論)のなかで基本的かつ必須であるテーマについて、その意義と問題点を学説上の争点、判例・立法例を交えつつ分かりやすく明らかにし、各自が体系的に刑法総論の輪郭をとらえることをねらいとする。 出欠確認/課題配布&amp;提出/質問受付等は全て授業管理システム(MS Teams)を通じて行うものとする。</p>
--

## 2. 授業計画

(1時限

45分

×

60回

=

2700分

4単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	刑法1 刑法の全体構造 刑法の目的、刑法学説、刑法の全体構造	41	刑法20 刑法総論(17) 共同正犯、共同正犯の成否
2	刑法1 刑法の全体構造 刑法の目的、刑法学説、刑法の全体構造	42	刑法20 刑法総論(17) 共同正犯、共同正犯の成否
3	刑法2 刑法概論(1) 犯罪の成立要件、修正された構成要件、罪数	43	刑法21 刑法総論(18) 共同正犯の成否、結果的加重犯
4	刑法2 刑法概論(1) 犯罪の成立要件、修正された構成要件、罪数	44	刑法21 刑法総論(18) 共同正犯の成否、結果的加重犯
5	刑法3 刑法概論(2) 刑法の基本原則、刑法の適用範囲	45	刑法22 刑法総論(19) 共同正犯と正当防衛、教唆犯、従犯
6	刑法3 刑法概論(2) 刑法の基本原則、刑法の適用範囲	46	刑法22 刑法総論(19) 共同正犯と正当防衛、教唆犯、従犯
7	刑法4 刑法総論(1) 構成要件、実行行為、不作為犯	47	刑法22 刑法総論(19) 共同正犯と正当防衛、教唆犯、従犯
8	刑法4 刑法総論(1) 構成要件、実行行為、不作為犯	48	刑法23 刑法総論(20) 狭義の共犯に関する諸問題
9	刑法5 刑法総論(2) 間接正犯、原因において自由な行為	49	刑法23 刑法総論(20) 狭義の共犯に関する諸問題
10	刑法5 刑法総論(2) 間接正犯、原因において自由な行為	50	刑法24 刑法総論(21) 共犯と錯誤、共犯と離脱・中止
11	刑法6 刑法総論(3) 条件関係、相当因果関係	51	刑法24 刑法総論(21) 共犯と錯誤、共犯と離脱・中止
12	刑法6 刑法総論(3) 条件関係、相当因果関係	52	刑法24 刑法総論(21) 共犯と錯誤、共犯と離脱・中止
13	刑法7 刑法総論(4) 構成要件の故意、具体的事実の錯誤	53	刑法25 刑法総論(22) 共犯と身分
14	刑法7 刑法総論(4) 構成要件の故意、具体的事実の錯誤	54	刑法25 刑法総論(22) 共犯と身分
15	刑法7 刑法総論(4) 構成要件の故意、具体的事実の錯誤	55	刑法25 刑法総論(22) 共犯と身分
16	刑法8 刑法総論(5) 因果関係の錯誤、抽象的事実の錯誤	56	法26 刑法総論(23) 罪数・刑罰論
17	刑法8 刑法総論(5) 因果関係の錯誤、抽象的事実の錯誤	57	法26 刑法総論(23) 罪数・刑罰論
18	刑法9 刑法総論(6) 作為義務の錯誤、違法性	58	法26 刑法総論(23) 罪数・刑罰論
19	刑法9 刑法総論(6) 作為義務の錯誤、違法性	59	総まとめ
20	刑法10 刑法総論(7) 正当防衛、過剰防衛、自招侵害	60	総まとめ
21	刑法10 刑法総論(7) 正当防衛、過剰防衛、自招侵害	61	
22	刑法11 刑法総論(8) 緊急避難の要件	62	
23	刑法11 刑法総論(8) 緊急避難の要件	63	
24	刑法12 刑法総論(9) 正当行為、その他の違法性阻却	64	
25	刑法12 刑法総論(9) 正当行為、その他の違法性阻却	65	
26	刑法13 刑法総論(10) 責任総説、責任能力、違法性の意識	66	
27	刑法13 刑法総論(10) 責任総説、責任能力、違法性の意識	67	
28	刑法14 刑法総論(11) 違法性阻却事由に関する錯誤、期待可能性	68	
29	刑法14 刑法総論(11) 違法性阻却事由に関する錯誤、期待可能性	69	
30	刑法15 刑法総論(12) 過失犯	70	
31	刑法15 刑法総論(12) 過失犯	71	
32	刑法16 刑法総論(13) 未遂犯、実行の着手時期	72	
33	刑法16 刑法総論(13) 未遂犯、実行の着手時期	73	
34	刑法17 刑法総論(14) 中止犯、予備の中止	74	
35	刑法17 刑法総論(14) 中止犯、予備の中止	75	
36	刑法18 刑法総論(15) 不能犯、不能犯と未遂犯	76	
37	刑法18 刑法総論(15) 不能犯、不能犯と未遂犯	77	
38	刑法19 刑法総論(16) 共犯総論、共同正犯の本質、共犯の従属性	78	
39	刑法19 刑法総論(16) 共犯総論、共同正犯の本質、共犯の従属性	79	
40	刑法20 刑法総論(17) 共同正犯、共同正犯の成否	80	

## 3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄 ・ 毎時出される課題の提出により動画視聴を確認し、これをもって出欠管理とする。この課題の成績は最終評価の50%を占めるものであり、真剣に取り組むことが強く推奨される。  ・ 諸連絡は各担任よりTeams若しくはクラスLINEによりなされる
授業貢献度	10%		
授業内のレポート・課題等	30%		
中間試験			
期末試験	50%		

## 4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	公務員Vテキスト社会科学	出版社	TAC株式会社出版事業部
著者名	TAC株式会社		

## 5. 実務教員の経歴

無
---

2020年6月8日

科目名	政治学	必修・選択	必修
対象クラス	法学部併修学科・法律公務員学科	開講時期	後期
教員名	吉井英二	実務授業の有無	無

## 1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

自由民主主義思想を中心に、歴史上および現代の政治理論の基本的議論を学ぶ。具体的には、近代社会の特徴、近代の主たる政治思想の潮流、自由民主主義の思想的意義、現代の諸問題と論争について基本的な知識を習得する。あわせて、これらの議論を行うために必要な政治学上の基本概念及び理論を習得する。

## 2. 授業計画

(1時限

45分

×

60回

=

2700分

4単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	イントロダクション	41	連邦制と地方制度5 地方分権のメリットとデメリット
2	政治とその分析1 政治の定義	42	連邦制と地方制度6 日本の地方分権
3	政治とその分析2 分析手法	43	安全保障と平和1 戦争と平和の定義
4	政治的秩序の概念1 政治の役割	44	安全保障と平和2 外交の失敗とそのパターン
5	政治的秩序の概念2 政治と権力闘争	45	安全保障と平和3 安全保障の選択肢
6	政治的秩序の概念3 秩序の変更と精度の限界	46	安全保障と平和4 安全保障のジレンマ
7	政治的秩序の概念4 囚人のジレンマとその解決	47	安全保障と平和5 民主化/民主化介入の平和
8	国家という枠組み1 国家と国民の定義	48	安全保障と平和6 現実主義的アプローチ
9	国家という枠組み2 国家の役割と種類	49	安全保障と平和7 リベラリズムのアプローチ
10	国家という枠組み3 国家と市民の対抗関係	50	安全保障と平和8 構造主義的アプローチ
11	政治体制1 政治体制の分類	51	国際政治経済1 なぜ自由貿易が望ましいか
12	政治体制2 民主化と近代化	52	国際政治経済2 政治体制と自由貿易
13	政治体制3 サバイバル理論と対抗のモデル	53	国際政治経済3 2way-Levelゲーム
14	選挙と投票1 民主主義における選挙1	54	国際政治経済4 国際制度の種類
15	選挙と投票2 民主主義における選挙2	55	国際政治経済5 国家が国際制度に頼る条件
16	選挙と投票3 選挙と選挙制度	56	個人と国際社会1 主権国家の相対化
17	選挙と投票4 投票行動	57	個人と国際社会2 国際関係の社会性
18	政党と政党システム1 政党の役割	58	個人と国際社会3 外交の民主化
19	政党と政党システム2 政党組織とその発展	59	個人と国際社会4 人権保護と国際関係
20	政党と政党システム3 政党システムとは何か	60	個人と国際社会5 暴力の独占、その溶解とテロリズム
21	政党と政党システム4 デュベルジュの法則	61	
22	政権とアカウンタビリティ1 執政権力	62	
23	政権とアカウンタビリティ2 リーダーの選択と責任	63	
24	政権とアカウンタビリティ3 政権の形成とその中枢	64	
25	政権とアカウンタビリティ4 民主主義のタイプ	65	
26	執政・立法・司法1 議院内閣制と大統領制	66	
27	執政・立法・司法2 大統領制の運用	67	
28	執政・立法・司法3 立法過程における権力分割1	68	
29	執政・立法・司法4 立法過程における権力分割2	69	
30	執政・立法・司法5 議会優位と司法の違憲審査権	70	
31	執政・立法・司法5 司法機関の独立性と確保	71	
32	政策過程1 なぜ政治過程が重要か	72	
33	政策過程2 政治過程の段階論	73	
34	政策過程3 政治と行政の融合	74	
35	政策過程4 官僚制の自立性	75	
36	政策過程5 競争と協調(レントとロビイング)	76	
37	連邦制と地方制度1 単一国家と連邦国家の違い	77	
38	連邦制と地方制度2 連邦制における権力の分割と共有	78	
39	連邦制と地方制度3 地方自治の機能	79	
40	連邦制と地方制度4 政治的・行政的・財政的分権	80	

## 3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄
授業貢献度			
授業内のレポート・課題等	20%		
中間試験			
期末試験	70%		

## 4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名		出版社	有斐閣
著者名	砂原庸介/稗田健志/多胡淳		

## 5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	社会学	必修・選択	必修
対象クラス	法学部併修学科・法律公務員学科	開講時期	後期
教員名	吉井英二	実務授業の有無	無

## 1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

個々の集団の「しくみ」と「はたらき」を学ぶことで、社会とはいったい何か、また社会は人間にどんな影響を与えるのかを学ぶ。加えて現代社会で起きるさまざまな現象のメカニズムを解明し、社会が抱える諸問題の原因探求とそれらに対する有効な解決策を模索することを目的とする。  
章ごとに問題演習を実施することを通じ、理解度を確認する。

## 2. 授業計画 (1時限 45分 × 60回 = 2700分 4単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	イントロダクション	41	問題演習
2	社会集団論1	42	社会心理1
3	社会集団論2	43	社会心理2
4	社会集団論3	44	社会心理3
5	問題演習	45	問題演習
6	集団類型論1	46	文化1
7	集団類型論2	47	文化2
8	集団類型論3	48	文化3
9	問題演習	49	問題演習
10	家族の類型・変遷1	50	マスメディア1
11	家族の類型・変遷2	51	マスメディア2
12	家族の類型・変遷3	52	マスメディア3
13	問題演習	53	問題演習
14	家族の機能・役割1	54	社会学理論 古典
15	家族の機能・役割2	55	問題演習
16	家族の機能・役割3	56	社会学理論 中期
17	問題演習	57	問題演習
18	労働1	58	社会学理論 現代
19	労働2	59	問題演習
20	労働3	60	基礎概念・社会調査
21	問題演習	61	
22	階級・階層1	62	
23	階級・階層2	63	
24	階級・階層3	64	
25	問題演習	65	
26	社会組織1	66	
27	社会組織2	67	
28	社会組織3	68	
29	問題演習	69	
30	逸脱行動1	70	
31	逸脱行動2	71	
32	逸脱行動3	72	
33	問題演習	73	
34	社会変動1	74	
35	社会変動2	75	
36	社会変動3	76	
37	問題演習	77	
38	都市1	78	
39	都市2	79	
40	都市3	80	

## 3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄
授業貢献度			
授業内のレポート・課題等	20%		
中間試験			
期末試験	70%		

## 4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	オリジナルプリントを配布	出版社	
著者名			

## 5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	国際政治史 I	必修・選択	必修
対象クラス	法学部併修学科・法律公務員学科	開講時期	後期
教員名	夏野 龍	実務授業の有無	無

## 1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

個別の国の政治史や外交史ではなく、大国あるいは強国間の政治現象を学ぶ。主要大国間の関係性をマクロ的、システム論的に捉えることで、今日における国際社会の構図の成り立ちを知ることが目的である。全体の時間数が限られるので、学生自身の事前学習や調べこみを基礎とし、講義では新たな視点や知識を持たせることを目指す。

## 2. 授業計画

(1時限

45分

×

30回

=

1350分

2単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	イントロダクション	41	
2	西欧国家体系の成立1	42	
3	西欧国家体系の成立2	43	
4	西欧国家体系の拡大・変容1	44	
5	西欧国家体系の拡大・変容2	45	
6	産業革命と19世紀国際関係1	46	
7	産業革命と19世紀国際関係2	47	
8	産業革命と19世紀国際関係3	48	
9	産業革命と19世紀国際関係4	49	
10	新興民族国家の成立	50	
11	帝国主義の時代1	51	
12	帝国主義の時代2	52	
13	帝国主義の時代3	53	
14	第一次世界大戦と西欧国家体系の動揺1	54	
15	第一次世界大戦と西欧国家体系の動揺2	55	
16	第一次世界大戦と西欧国家体系の動揺3	56	
17	戦間期の世界1	57	
18	戦間期の世界2	58	
19	戦間期のアジア	59	
20	第二次世界大戦中の国際関係1	60	
21	第二次世界大戦中の国際関係2	61	
22	第二次世界大戦の終結と新秩序の形成1	62	
23	第二次世界大戦の終結と新秩序の形成2	63	
24	冷戦概念と現代国際政治史1	64	
25	冷戦概念と現代国際政治史2	65	
26	冷戦概念と現代国際政治史3	66	
27	問題演習	67	
28	問題演習	68	
29	問題演習	69	
30	問題演習	70	
31		71	
32		72	
33		73	
34		74	
35		75	
36		76	
37		77	
38		78	
39		79	
40		80	

## 3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄
授業貢献度			
授業内のレポート・課題等	20%		
中間試験			
期末試験	70%		

## 4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	オリジナルプリントを配布。参考文献としてポール・ケネディ著「大国の興亡」(上下巻)。		
著者名		出版社	

## 5. 実務教員の経歴

無
---

2020年6月8日

科目名	英語B	必修・選択	必修
対象クラス	法学部併修学科	開講時期	前期
教員名	スティーブソン・アロン	実務授業の有無	無

## 1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

社会人として活躍する際に想定される各種場面での受信、発信力の基礎を培うことを目的とする。「読んだ内容・聞いた内容＝受信」したものを自身で「書く・話す＝発信」へと転化できる力の養成を目指す。文法や語句を英語的知識にとどめておくだけでなく、コミュニケーション・ツールとして使い方に習熟し、日常生活での場面、社会活動での場面における英語によるコミュニケーション力の向上をはかる。また異文化理解と異文化に対する姿勢づくりにも併せて取り組む。

## 2. 授業計画 (1時限 45分 × 30回 = 1350分 2単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	オリエンテーション	41	
2	A Lesson from Bhutan (Grammar)	42	
3	A Lesson from Bhutan (Reading)	43	
4	A Lesson from Bhutan (Reading)	44	
5	A Lesson from Bhutan (Summary)	45	
6	The Story of Mother's Day (Grammar)	46	
7	The Story of Mother's Day (Reading)	47	
8	The Story of Mother's Day (Reading)	48	
9	The Story of Mother's Day (Summary)	49	
10	George Morikami's Dream (Grammar)	50	
11	George Morikami's Dream (Reading)	51	
12	George Morikami's Dream (Reading)	52	
13	George Morikami's Dream (Summary)	53	
14	Pizza: An International Favorite (Grammar, Reading)	54	
15	Pizza: An International Favorite (Reading)	55	
16	Pizza: An International Favorite (Reading)	56	
17	Pizza: An International Favorite (Summary)	57	
18	The Story of the Red Rose (Grammar)	58	
19	The Story of the Red Rose (Reading)	59	
20	The Story of the Red Rose (Reading)	60	
21	The Story of the Red Rose (Summary)	61	
22	Madame Butterfly and Intercultural Marriages (Grammar)	62	
23	Madame Butterfly and Intercultural Marriages (Reading)	63	
24	Madame Butterfly and Intercultural Marriages (Reading)	64	
25	Madame Butterfly and Intercultural Marriages (Summary)	65	
26	A Siesta Makes You Smarter! (Grammar)	66	
27	A Siesta Makes You Smarter! (Reading)	67	
28	A Siesta Makes You Smarter! (Reading)	68	
29	Summary発表	69	
30	Summary発表	70	
31		71	
32		72	
33		73	
34		74	
35		75	
36		76	
37		77	
38		78	
39		79	
40		80	

## 3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄 事前学習－授業時間同様の時間を使い、学習ユニットの表現、語句について下調べをすること。 事後学習－授業時間同様の時間を使い、学習ユニットの音読練習、ほぼ毎回行う小テストを含め次回への課題に向け取り組むこと。 出席する上での注意点－積極的に発言、参加すること。辞書必携。
授業貢献度	20%		
授業内のレポート・課題等	50%		
中間試験			
期末試験	20%		

## 4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	Enjoyable Reading -100 Key Sentence Patterns- 読んで身につく基本文型100		
著者名	Joan McConnell / 武田修一	出版社	成美堂

## 5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	情報処理 I (Word実習)	必修・選択	必修
対象クラス	NLEED1年	開講時期	後期
教員名	高村恵利加	実務授業の有無	無

## 1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントを使用し、タッチタイピングを習得する。</li> <li>・テキストを使用し、Wordの基本操作を習得する。</li> <li>・練習プリントを使用し、応用力を身に付ける。</li> <li>・検定問題集を使用し、3級合格を目指す。</li> </ul>
---

## 2. 授業計画 (1時限 45分 × 64回 = 2880分 4単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	キーボード、Wordの画面説明	41	問題集 練習問題1
2	タッチタイピングの説明	42	問題集 練習問題1
3	タッチタイピング アルファベット入力練習	43	問題集 練習問題2
4	タッチタイピング アルファベット入力練習	44	問題集 練習問題2
5	タッチタイピング プリント:清音、濁音・半濁音	45	問題集 練習問題3
6	タッチタイピング プリント:清音、濁音・半濁音	46	問題集 練習問題3
7	タッチタイピング プリント:拗音	47	練習問題1～3の直し
8	タッチタイピング プリント:拗音	48	練習問題1～3の直し
9	タッチタイピング プリント:記号、短文、長文練習	49	練習問題1～3の直し
10	タッチタイピング プリント:記号、短文、長文練習	50	問題集 模擬問題1
11	タッチタイピング プリント:記号、短文、長文練習	51	解答・直し 早く終了した人から課題(模擬4)
12	速度入力 Chapter1 Wordの基本	52	問題集 模擬問題2
13	Chapter1 Wordの基本	53	解答・直し 早く終了した人から課題(模擬4)
14	速度入力 Chapter2 文字の入力と基本操作	54	問題集 模擬問題3
15	Chapter2 文字の入力と基本操作	55	解答・直し 早く終了した人から課題(模擬4)
16	速度入力 Chapter3 文書の編集	56	問題集 模擬問題5
17	Chapter3 文書の編集	57	解答・直し 早く終了した人から速度入力
18	速度入力 Chapter4 文書の印刷と作成	58	問題集 模擬問題6
19	Chapter4 文書の印刷と作成	59	解答・直し 早く終了した人から速度入力
20	速度入力 Chapter5 文書の印刷と作成	60	課題の解答・直し
21	Chapter5 文書の印刷と作成	61	サンプル問題
22	速度入力 プリント:ビジネス文書1～4	62	解答・直し
23	プリント:ビジネス文書1～4	63	検定
24	プリント:ビジネス文書1～4	64	検定
25	プリント:ビジネス文書1～4	65	
26	速度入力 プリント:タブとリーダー	66	
27	プリント:タブとリーダー	67	
28	Chapter6 表を使った文章の作成	68	
29	Chapter6 表を使った文章の作成	69	
30	速度入力 プリント:罫線操作1～4	70	
31	プリント:罫線操作1～4	71	
32	Chapter7 図形や画像を使った文書の作成	72	
33	Chapter7 図形や画像を使った文書の作成	73	
34	速度テスト プリント:図形操作1～3	74	
35	プリント:図形操作1～3	75	
36	Chapter2～7の練習問題	76	
37	Chapter2～7の練習問題	77	
38	Chapter2～7の練習問題	78	
39	第2部 総合学習問題	79	
40	第2部 総合学習問題	80	

## 3. 評価方法

出席	} N/A	備考欄	科目出席率75%未満または、10点満点中
授業貢献度			A: 8～10点 ※検定不合格者はC評価
授業内のレポート・課題等			B: 5～7点 ※授業態度、課題、提出物、模擬問題、
中間試験			C: 3～4点 サンプル問題、検定結果を総合評価
期末試験			追試: 0～2点

## 4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	Word2016クイックマスター<基礎編>、Word文書処理技能認定試験3級問題集2016対応版		
著者名	サーティファイ ソフトウェア活用能力認定委員会	出版社	株式会社サーティファイ

## 5. 実務教員の経歴

--

2020年6月8日

科目名	体育実習	必修・選択	選択
対象クラス	法学併修学科1年	開講時期	前期
教員名	松本 靖	実務授業の有無	無

## 1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての生活の基礎となる体力・健康維持の重要性を理解させ、その向上を図る。</li> <li>・知的学習への取り組みにおける粘り強さ、乗り越える力を養う。</li> <li>・生涯に渡ってスポーツに親しむ能力を養う。</li> </ul>
--

## 2. 授業計画 (1時限 45分 × 15回 = 675分 1単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	授業ガイダンス、ストレッチ運動	41	
2	体力テスト:新体力テスト抜粋+垂直跳び等	42	
3	体力テスト:新体力テスト抜粋+垂直跳び等	43	
4	有酸素運動トレーニング・ダンス演習	44	
5	筋力トレーニング・柔軟性トレーニング	45	
6	有酸素運動トレーニング・ダンス演習	46	
7	筋力トレーニング・柔軟性トレーニング	47	
8	バスケットボール演習	48	
9	バスケットボール演習	49	
10	ソフトバレーボール演習	50	
11	ソフトバレーボール演習	51	
12	ゴルフ演習	52	
13	ゴルフ演習	53	
14	体力テスト:新体力テスト抜粋+垂直跳び等	54	
15	体力テスト:新体力テスト抜粋+垂直跳び等	55	
16		56	
17		57	
18		58	
19		59	
20		60	
21		61	
22		62	
23		63	
24		64	
25		65	
26		66	
27		67	
28		68	
29		69	
30		70	
31		71	
32		72	
33		73	
34		74	
35		75	
36		76	
37		77	
38		78	
39		79	
40		80	

## 3. 評価方法

出席と体力測定により 100% A:出席率90%以上、体力測定上位20%の者 B:上記以外で出席率80%以上、体力測定上位50%以上 C:上記以外で出席率75%以上の者 D:出席率75%未満の者(追試)	100%	備考欄
---	------	-----

## 4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	改訂版 健康とスポーツの生理科学	出版社	ふくろう出版
著者名	江橋博		

## 5. 実務教員の経歴

無
---

2020年6月8日

科目名	法学入門	必修・選択	必須
対象クラス	法学部併修学科1年	開講時期	後期
教員名	小林 貴子	実務授業の有無	無

## 1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

これから法学と向き合おうとする学生が、学修の出発点として必要な内容を修得することを目的とする  
 具体的に、法学という学問の学問の基本的特徴、その全体像を把握すること、また、公法、私法、刑事法の基礎知識を修得することを目指す。

## 2. 授業計画 (1時限 45分 × 33回 = 1485分 2単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	法学という学問の特徴、概要	41	
2	法学入門1 「法学」とは何か	42	
3	法学入門2 「法学」とは何か	43	
4	法学入門3 法源	44	
5	法学入門4 法源	45	
6	法学入門5 法の解釈	46	
7	法学入門6 法の解釈	47	
8	公法入門1 公法の概要	48	
9	公法入門2 人権	49	
10	公法入門3 人権	50	
11	公法入門4 人権	51	
12	公法入門5 人権	52	
13	公法入門6 統治、権利実現の方法	53	
14	公法入門7 統治、権利実現の方法	54	
15	公法入門8 統治、権利実現の方法	55	
16	刑事法入門1 刑事法の概要	56	
17	刑事法入門2 罪刑法定主義	57	
18	刑事法入門3 刑罰の正当性	58	
19	刑事法入門4 犯罪概念の明確化	59	
20	刑事法入門5 犯罪概念の明確化	60	
21	刑事法入門6 刑事手続き	61	
22	刑事法入門7 刑事手続き	62	
23	刑事法入門8 刑事手続き	63	
24	民法の入門1 私法の概要	64	
25	民法の入門2 私法の権利主体	65	
26	民法の入門3 私法の権利主体	66	
27	民法の入門4 所有権、契約	67	
28	民法の入門5 所有権、契約	68	
29	民法の入門6 所有権、契約	69	
30	民法の入門7 過失責任、民事訴訟	70	
31	民法の入門8 過失責任、民事訴訟	71	
32	民法の入門9 過失責任、民事訴訟	72	
33	総まとめ 公法、刑事法、民法の交錯	73	
34		74	
35		75	
36		76	
37		77	
38		78	
39		79	
40		80	

## 3. 評価方法

出席	80%	} 100%	備考欄
授業貢献度			
授業内のレポート・課題等	20%		
中間試験			
期末試験			

## 4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	法学入門	出版社	中央経済社
著者名	永井和之		

## 5. 実務教員の経歴

無
---



2020年6月8日

科目名	憲法1演習	必修・選択	必須
対象クラス	法学部併修学科1年	開講時期	後期
教員名	小林 貴子	実務授業の有無	無

## 1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

憲法は、国の最高法規であり、あらゆる法規の基礎である。憲法というルールを定めることにより国家権力を制限し、それによって一人ひとりの自由や権利を保護する、いわゆる「近代立憲主義」の考え方を、具体的な事件や裁判例を通じ、「憲法的思考」を身につけ、憲法問題について自分なりに答えを出せるようにすることを到達目標とする。

上記目標に沿って、レポートの作成方法を学び実際に法律論文等に対応できるように演習を通じて表現する。

## 2. 授業計画 (1時限 45分 × 33回 = 1485分 2単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	憲法総論(1) 憲法の意味、憲法の基本原理	41	
2	憲法総論(2) 法の支配、憲法保障	42	
3	憲法総論 人権享有主体性、外国人、法人、天皇、公務員、在監者	43	
4	憲法総論(7) 公共の福祉論、パターンリズム、国民の義務	44	
5	人権各論(1) 幸福追求権、新しい人権	45	
6	人権各論(2) 法の下での平等、平等の具体的内容	46	
7	人権各論(3) 思想及び良心の自由、信教の自由	47	
8	人権各論(4) 政教分離原則	48	
9	人権各論(5) 学問の自由、大学の自治	49	
10	人権各論(6) 表現の自由、報道の自由、メモの自由	50	
11	人権各論 営利広告の自由、性表現、名誉・プライバシー権、差し止め	51	
12	人権各論(11) 事前抑制禁止の理論、検閲の禁止、通信の秘密	52	
13	人権各論 集会・結社の自由、パブリック・フォーラム、敵意ある聴衆	53	
14	違憲審査基準 違憲審査基準の例、違憲判断の類型、三段階審査	54	
15	人権各論(13) 経済的自由権、営業の自由、規制目的二分論	55	
16	人権各論(14) 二分論の再検討、居住・移転の自由	56	
17	財産権の保障、財産権の違憲審査基準、条例と財産権	57	
18	人権各論(17) 人身の自由、適正手続の保障、刑事手続上の権利	58	
19	人権各論(18) 請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権	59	
20	人権各論(19) 選挙権、被選挙権	60	
21	人権各論(20) 社会権、生存権	61	
22	教育を受ける権利、教師側の教育の自由、義務教育	62	
23	統治(2) 代表民主制、選挙制度	63	
24	統治(3) 政党、議員定数不均衡	64	
25	統治(4) 国会、唯一の立法機関、国会中心立法	65	
26	統治(5) 国会単独立法、国会の組織と活動	66	
27	統治(6) 国会議員、国会・議院の権能、議院の自律権	67	
28	統治(7) 内閣、議員内閣制、内閣総理大臣	68	
29	統治(8) 財政、予算、公金支出の禁止	69	
30	統治(9) 地方自治、地方公共団体、条例制定権	70	
31	統治(10) 司法権の範囲と限界、部分社会の法理	71	
32	統治(11) 司法権の独立、裁判所の構成と権能、裁判の公開	72	
33	統治(12) 違憲審査制、立法不作為	73	
34		74	
35		75	
36		76	
37		77	
38		78	
39		79	
40		80	

## 3. 評価方法

出席	80%	} 100%	備考欄 ・ ・
授業貢献度			
授業内のレポート・課題等	20%		
中間試験			
期末試験			

## 4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	公務員試験 新スーパー過去問ゼミ4 憲法	出版社	実務教育出版
著者名	実務教育出版 編集部		

## 5. 実務教員の経歴

無
---

2020年6月8日

科目名	民法総則演習	必修・選択	必須
対象クラス	法学部併修学科1年	開講時期	後期
教員名	小林 貴子	実務授業の有無	無

## 1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

公務員採用試験、法科大学院入学試験等の各種試験に必要な最低限の知識、企業における法務セクション等で要求される民法総則の諸知識を獲得すること、また社会人として今後遭遇するであろう民法の法律問題につき相当な知識を身につけることが到達目標である。民法総則1条～174条と、成年後見法、消費者契約法や一般法人法など関連する特別法の解釈論等についても学ぶ。

上記目標に沿って、レポートの作成方法を学び実際に法律論文等に対応できるように演習を通じて表現する。

## 2. 授業計画 (1時限 45分 × 33回 = 1485分 2単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	民法3 民法総則(1) 通則、自然人と能力	41	
2	民法4 民法総則(2) 住所・居所、失踪宣告	42	
3	民法5 民法総則(3) 法人制度、法人の機関、権利能力なき社団	43	
4	民法5 民法総則(3) 法人制度、法人の機関、権利能力なき社団	44	
5	民法6 民法総則(4) 物の概念、物権、主物と従物	45	
6	民法6 民法総則(4) 物の概念、物権、主物と従物	46	
7	民法7 民法総則(5) 法律行為、意思表示	47	
8	民法7 民法総則(5) 法律行為、意思表示	48	
9	民法8 民法総則(6) 意思表示理論、心裡留保、通謀虚偽表示	49	
10	民法8 民法総則(6) 意思表示理論、心裡留保、通謀虚偽表示	50	
11	民法9 民法総則(7) 錯誤	51	
12	民法9 民法総則(7) 錯誤	52	
13	民法10 民法総則(8) 詐欺、強迫	53	
14	民法10 民法総則(8) 詐欺、強迫	54	
15	民法11 民法総則(9) 無効、取消、追認	55	
16	民法11 民法総則(9) 無効、取消、追認	56	
17	民法12 民法総則(10) 代理総論、顕名、代理と詐欺	57	
18	民法12 民法総則(10) 代理総論、顕名、代理と詐欺	58	
19	民法13 民法総則(11) 代理権授与行為、双方代理、代理人の権限濫用	59	
20	民法13 民法総則(11) 代理権授与行為、双方代理、代理人の権限濫用	60	
21	民法14 民法総則(12) 代理権の消滅、無権代理	61	
22	民法14 民法総則(12) 代理権の消滅、無権代理	62	
23	民法15 民法総則(13) 表見代理(109)、無権代理と表見代理	63	
24	民法15 民法総則(13) 表見代理(109)、無権代理と表見代理	64	
25	民法16 民法総則(14) 表見代理(110・112)	65	
26	民法16 民法総則(14) 表見代理(110・112)	66	
27	民法17 民法総則(15) 条件、期限、期間	67	
28	民法17 民法総則(15) 条件、期限、期間	68	
29	民法18 民法総則(16) 時効総論、時効の援用、時効の利益の放棄	69	
30	民法18 民法総則(16) 時効総論、時効の援用、時効の利益の放棄	70	
31	民法19 民法総則(17) 時効の更新と完成猶予	71	
32	民法19 民法総則(17) 時効の更新と完成猶予	72	
33	民法20 民法総則(18) 取得時効、消滅時効	73	
34		74	
35		75	
36		76	
37		77	
38		78	
39		79	
40		80	

## 3. 評価方法

出席	80%	} 100%	備考欄 ・ ・
授業貢献度			
授業内のレポート・課題等	20%		
中間試験			
期末試験			

## 4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	公務員試験 新スーパー過去問ゼミ4 民法 I	出版社	実務教育出版
著者名	実務教育出版 編集部		

## 5. 実務教員の経歴

無
---

2020年6月8日

科目名	刑法総論演習	必修・選択	必須
対象クラス	法学部併修学科1年	開講時期	後期
教員名	小林 貴子	実務授業の有無	無

## 1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

この授業では、犯罪の基本的な成立要件を考える。刑法総則に規定される犯罪成立要件全体に共通する項目(構成要件該当性、違法性、有责性、未遂、共犯、罪数、刑罰論)のなかで基本的かつ必須であるテーマについて、その意義と問題点を学説上の争点、判例・立法例を交えつつ分かりやすく明らかにし、各自が体系的に刑法総論の輪郭をとらえることをねらいとする。

上記目標に沿って、レポートの作成方法を学び実際に法律論文等に対応できるように演習を通じて表現する。

## 2. 授業計画 (1時限 45分 × 33回 = 1485分 2単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	刑法2 刑法概論(1) 犯罪の成立要件、修正された構成要件、罪数	41	
2	刑法3 刑法概論(2) 刑法の基本原則、刑法の適用範囲	42	
3	刑法4 刑法総論(1) 構成要件、実行行為、不作為犯	43	
4	刑法5 刑法総論(2) 間接正犯、原因において自由な行為	44	
5	刑法6 刑法総論(3) 条件関係、相当因果関係	45	
6	刑法6 刑法総論(3) 条件関係、相当因果関係	46	
7	刑法7 刑法総論(4) 構成要件の故意、具体的事実の錯誤	47	
8	刑法7 刑法総論(4) 構成要件の故意、具体的事実の錯誤	48	
9	刑法8 刑法総論(5) 因果関係の錯誤、抽象的事実の錯誤	49	
10	刑法8 刑法総論(5) 因果関係の錯誤、抽象的事実の錯誤	50	
11	刑法9 刑法総論(6) 作為義務の錯誤、違法性	51	
12	刑法10 刑法総論(7) 正当防衛、過剰防衛、自招侵害	52	
13	刑法11 刑法総論(8) 緊急避難の要件	53	
14	刑法12 刑法総論(9) 正当行為、その他の違法性阻却	54	
15	刑法13 刑法総論(10) 責任総説、責任能力、違法性の意識	55	
16	刑法14 刑法総論(11) 違法性阻却事由に関する錯誤、期待可能性	56	
17	刑法15 刑法総論(12) 過失犯	57	
18	刑法16 刑法総論(13) 未遂犯、実行の着手時期	58	
19	刑法16 刑法総論(13) 未遂犯、実行の着手時期	59	
20	刑法17 刑法総論(14) 中止犯、予備の中止	60	
21	刑法18 刑法総論(15) 不能犯、不能犯と未遂犯	61	
22	刑法19 刑法総論(16) 共犯総論、共同正犯の本質、共犯の従属性	62	
23	刑法20 刑法総論(17) 共同正犯、共同正犯の成否	63	
24	刑法20 刑法総論(17) 共同正犯、共同正犯の成否	64	
25	刑法21 刑法総論(18) 共同正犯の成否、結果的加重犯	65	
26	刑法22 刑法総論(19) 共同正犯と正当防衛、教唆犯、従犯	66	
27	刑法22 刑法総論(19) 共同正犯と正当防衛、教唆犯、従犯	67	
28	刑法23 刑法総論(20) 狭義の共犯に関する諸問題	68	
29	刑法24 刑法総論(21) 共犯と錯誤、共犯と離脱・中止	69	
30	刑法25 刑法総論(22) 共犯と身分	70	
31	刑法25 刑法総論(22) 共犯と身分	71	
32	法26 刑法総論(23) 罪数・刑罰論	72	
33	法26 刑法総論(23) 罪数・刑罰論	73	
34		74	
35		75	
36		76	
37		77	
38		78	
39		79	
40		80	

## 3. 評価方法

出席	80%	} 100%	備考欄 ・ ・
授業貢献度			
授業内のレポート・課題等	20%		
中間試験			
期末試験			

## 4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	公務員試験 新スーパー過去問ゼミ4 刑法	出版社	実務教育出版
著者名	実務教育出版 編集部		

## 5. 実務教員の経歴

無
---